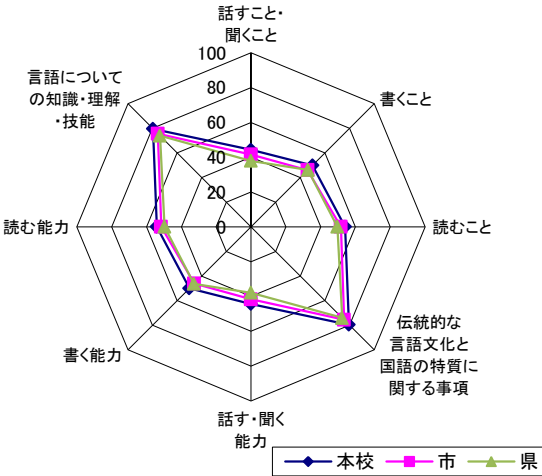


宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.3	41.6	37.9
	書くこと	50.0	46.1	46.3
	読むこと	54.1	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.6	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	44.3	41.6	37.9
	書く能力	50.0	46.1	46.3
	読む能力	54.1	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	79.6	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は44.3%で市や県の正答率を上回った。「提案者の役割を理解し、話し合いに参加する」という設問内容の正答率は74.4%と市や県の正答率を大幅に上回った。話し合い活動の機会を多くし、自分の考えをまとめ発表する等の指導支援してきたことに効果があったと考えられる。 ●「進行に沿った話し合いをする」については正答率が低く、レベルアップを図る必要がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国語科の授業や他教科の授業において、話し合い活動を多く設けるとともに、進行に沿った話し合いができるようにメモを取りながら話し合いに参加させるよう指導する。また、提案者や司会者など、色々な立場で話し合い活動ができるよう学習場面の設定を工夫する。
書くこと	○正答率は50.0%で市や県の正答率を上回った。特に、「目的に応じて資料の見せ方を工夫する」という設問内容に対する正答率が、市や県より10%以上も高かった。 ●本校の正答率は市や県の正答率を上回ったが、個人差があり、段落の役割や構成、接続語の使い方等を指導する必要がある。	・国語科の授業において、構成や接続語の使い方などを再度具体的に指導する。 ・構成メモを書かせ、段落の役割や内容の中心を確認させた上で書く活動に取り組ませる。 ・日常的に文章を書く場面を設定し、目的に応じた文章を書けるように指導する。
読むこと	○本校の正答率は54.1%で市や県の正答率を上回った。「段落相互の関係を押さえて読む問題」や「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む問題」(選択式)の正答率が市や県と比べて5%以上高かった。 ●「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む問題」(短答式)は、市や県の正答率を0.4%以内ではあるが下回った。	・叙述に即して内容を読み取り、自分の言葉で表現するような学習を展開する。また、中心となるキーワードを意識できるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の正答率は79.6%で市や県の正答率を上回った。特に、「主語と述語の関係」、「ことわざの使い方」、「漢字の組み立て」などの正答率が高かった。 ●「既習漢字の書き取り」(3問中2問)「漢字の組み立て」が市や県の正答率を少し下回った。	・機会を捉えて、繰り返し既習の漢字の復習を行う。また、既習の漢字を使って文章を書くことができるように指導する。 ・宮っこステップアップシートを活用する。 ・書写の授業や新出漢字の学習を行う際に、漢字の組み立てにも触れて習熟を図っていく。